特別事業

品川宿史談会

品川宿史談会の講演会は、会場である品川第一地域センターの定員半数という利用制限で、なかなか盛会という分けには行きませんでしたが、第14回講演会は令和4年4月17日、地元の老舗企業呉服店「尾張屋・大橋家の先祖史をたどる物語」が開催された。大橋登、前社長、現社長のお話は、江戸中期創業の材木店から、明治23年分家として呉服屋を創業し、かって品川の「さいか屋」とも言われ繁栄した戦前、戦後の様子が彷彿する様子を話していただいた。

第15回講演会は大田区立郷土博物館・乾賢太郎学芸員による「京浜地区の木曽御嶽講の成立」が講演された。前年の同博物館の特別展を補う形で、品川三笠山元講の研究が進み、博物館の紀要が発表され、これを受けた形の講演であった。現在品川にはこの講の活動は絶たれており、元講活動の先達保川作左衛門を知る人が、出身地の東品川に居られないということで、我々史談会でお探ししましたが、ご先祖が明治・大正・昭和にわたりご活躍されたことを、亡くなられたご主人から聞いていなかったということで、大変感謝されました。現在は、大森で講を引き継ぐ行者によって、例年品川神社にある元講の社で行事が行われている。

第16回公演は令和5年2月19日八ツ山の荒井家3男、荒井孝昌氏に荒井家の先祖史の講演を依頼。品川



硝子製作所へ鹿児島の集成館で働いた部下を引き連れ来た大重忠左衛門の血を引き、幕末からの品川宿の臺屋「荒井屋」は居残り佐平治のお話は誰もが知るお話。真相は？（新実正義）

写真展「品川宿の祭り」

なつかしい祭りの写真が127点、お誘いあわせて是非ご覧ください！品川宿交流館では今年度も、なつかしい写真展を実施しています。テーマはずっと温めてきた「品川宿の祭り」。品川宿の各町会、品川神社、そして品川歴史館の協力をいただき、ようやく実現することができました。オール品川宿の祭りの写真がこれだけまとめて展示されるのは、おそらく初めてのことと思います。中でも台場横丁の坂を上る諏訪会の神輿や、荏原神社の宮神輿が海晏寺門前から海に入り、沖合を渡御する写真（いずれも北品川で写真館を開いていた飯島寿さんの撮影）、また地元の祭り好きの方も「こんな山車があるのは知らなかった」という貴重な写真など、きっとお楽しみいただけることと思います。



展示期間は令和5年3月31日までです。どうぞお見逃しなく。

なおこの写真展は品川区文化観光課からのご支援をいただき、当協議会が制作を担当しており、この他にも現在「まち歩き+体験型プログラム」、「PR動画」、「まち歩きマップ」の制作にも取り組んでいます。（佐山吉孝）

南品川櫻河岸～まちなか観光案内所

4月のオープン以降も、櫻心会町会、品川宿場通り南会、近隣のみなさんに見守られながら、無事に新年を迎えることができました。秋口頃から外国人旅行者やまちあるきの方の姿が目立つようになってきました。また、この数年で品川宿に越してきた若い世代（家族）が、地元の情報を求めて多く来館されます。「東海道の風情や水辺が近いなど、暮らす環境の良さで選んだ」と聞くたびに、諸先輩方がこれまで積み重ねてきた「まちづくり」の賜物なんだな～と感慨深いです。

現在、櫻心会町会さんの協力の元、新しい案内リーフレットの作成を進めていますので、そちらもお楽しみに！（わだふじこ）



しながわホッケーファンゾーン2022

ホッケー日本代表の国際親善試合「SOMPO JAPAN CUP」を盛り上げることを目標に8月26日、27日の2日間にわたって「しながわホッケーファンゾーン2022」が大井競馬場にて開催されました。品川区とともに約20の区内公益団体・企業で構成する実行委員会（会長丹治さん、副会長堀江さんほか）で協力し、オール品川でイベントを実施しました。盆踊りや盆ダンスなど各ステージから、ホッケースティックアートや応援の展示など、試合を終えたホッケー日本代表選手たちにもご来場いただき、品川の人情と熱量を感じていただきました！今後も、東京2020大会をきっかけに生まれたポジティブなレガシーを広げていきたいと思います！（竹中茂雄）



文化スポーツ夢プロジェクト

品川区初のプロスポーツクラブ、しながわシティ誕生

2021年4月に品川区初のプロスポーツクラブとして「しながわシティ」が誕生しました。しながわシティは総合型スポーツクラブとして、Fリーグ所属のフットサル、Bリーグ所属のバスケットボール、ビーチバレーの3競技があります。我々はフットサルの立上げに協力してきました。千葉県をホームタウンとしていた、「トルエーラ柏」と品川区をホームタウンとしていた、「東海道品川宿FC」が統合して、「しながわシティフットサルクラブ」が誕生しました。まちづくり協議会から誕生した「東海道品川宿FC」は、フットサルの立上げに協力



しました。スポーツの力で品川区を盛り上げて行きますので、応援よろしくお願いします。（松村 圭祐）

【経緯】中学生の為の部活動支援を目的に、2002年に品川区少年サッカー連盟、中体連、FC東京が連携した「FC品川」誕生。2016年、フットサルチーム「東海道品川宿FC」誕生

発行：旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
東海道品川宿
会報みこしだこ
2023年 新春版
2023年1月16日発行 第59号

謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

本年こそは世の中や皆様にとって素晴らしい1年になりますよう心から祈念いたしております。

現在もコロナが収束する気配がないものの、最近は徐々に日本人旅行者や外人観光客の数も増えつつあるようです。そのようなコロナ禍に於いて、昨年も様々な取り組みを行って参りましたので、この場をお借りして少々報告させていただきます。

第1に、品川区より多大なるご協力をいただき、品川橋袂の旧交番跡を改修して、昨年4月にオープンした南品川櫻河岸 まちなか観光案内所内も順調に運営され、品川宿交流館の休館日を補う形で、来宿される観光客に対しマップや観光情報を提供しています。

また品川宿交流館では、写真展第3弾「品川の祭り　大正から昭和へ」が、昨年10/7（金）から今年3月末までの予定で開催。その他、現代浮世絵の展示なども地元の方々の主催イベントも開催され、多くの方々が交流をされました。

第2に、オリンピック東京2020大会のレガシーを残そうということで、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場（以下、大井ホッケー競技場）でのホッケー等競技を盛り上げるべく、しながわホッケーファンゾーン実行委員会の一員として、さまざまな取り組みに協力して参りました。実施内容は下記の通りです。

①大井ホッケー競技場再開業イベントの出店協力
②フリークス東京 しながわ水族館表敬訪問
③ホッケー日本代表サムライジャパン
区内商店街表敬訪問及び撮影（北品川本通り商店会、青物横丁商店街）
④ホッケーリーグ　フリークス東京戦
応援出店協力
⑤全国スポーツ少年団ホッケー交流大会
（8/11～14）おもてなしのかき氷等出店協力
⑥ホッケー日本代表国際強化試合SOMPOマッチ（8/27、28）に合わせ、大井競馬場にて「しながわホッケーファンゾーン」大イベント開催
⑦マスターズホッケーワールドカップ期間中
（10/19～29）

- 競技場にしながわ観光情報ブース設置し、品川区内を案内。外国人を対象に、習字で漢字の当て字の名前をプレゼント、ノベルティプレゼント、記念写真撮影等も行った
- 多くの外国人を品川宿に誘導し、屋形船・品川蒔絵・坐禅・ほうろく灸・和菓子作り・天神湯（温泉）に入って宿場内の各店で食事等様々なおもてなし体験を実施し、大好評をいただく

オリンピック後の大井ホッケー競技場レガシーを残すため、上記の多様な取り組みを行ってきました。ホッケー競技などに訪れた方々が競技場周辺に宿泊し、空き時間に品川宿や周辺を観光（ショートトリップ）するスポーツツーリズムに通じると思っています。

また、2023年も1/20（金）・21（土）にはホッケーリーグ 東京ヴェルディ女子ホッケーチームの試合を応援する予定です。レガシーの取り組みを続け、さらに地元のホッケー競技応援熱も高めていきたいと考えております。

第3に、3年ぶりとなる＜しながわ運河まつり＞開催、＜しながわ水辺の観光フェスタ＞の通常開催に漕ぎ着けたことを本当に心から嬉しく思います。久しぶりのイベントとあって、会場は大盛況でした。これからも地元で頑張るイベントを応援してまいりたいと思います。

- しながわ春の運河まつり(4/9、10)　グラウンド企画、東海道品川橋さくら咲くテラス
- しながわ水辺の観光フェスタ（10/9、10）秋の運河まつりグラウンド企画、東海道しながわ橋テラス
- 灯篭プロジェクト　秋の運河まつりでは城南小、東京メガイルミ（大井競馬場）品川区民デー、品海公園では台場小、それぞれの学校児童制作の灯篭を展示。品海公園展示では、北品川本通り商店会協力の下、東京ヴェルディ女子ホッケーチーム選手も参加
- 城南小学校「東海道歴史探訪」まちあるき
- 品川宿6小学校対抗東海道駅伝



そして最後に特筆すべく、東海道沿線の各信用金庫の多大なるご協力をいただき、昨年10/7（金）に日本橋から三島宿までの（1カ所・11宿）御宿場印が先行完成したことを報告させていただきます。品川宿の御宿場印は、地元 城南信用金庫品川支店様にご協賛をいただき、大変素晴らしいものとなりました。品川宿交流館にご来館の際は、ぜひご購入いただければと思います。

城南信用金庫品川支店様をはじめ、各信用金庫の皆様にこの場をお借りして、心から御礼申し上げます。

さらに大変喜ばしいことに、本年1月中には京都三条までの東海道五十三次の御宿場印が、東海道沿線信用金庫のネットワークや各宿場のご協力で完成し、繋がる予定と伺っております。これは長年の夢でもあった、東海道の各宿場が一つの事業で繋がる初めての事例となります。今後、各宿場の観光協会が窓口の中心となり、旅行ツアー企画、各宿場同士の連携が始まっていくことを想像しますと今からワクワクします。また、京都三条までの『東海道五十三次御宿場印』が完成した後には、大坂までの『東海道五十七宿御宿場印』へとさらに広げていきたいと思っています。

コロナ収束とともに外国人を含む多くの観光客の来宿に備え、まちとしてもお迎え・おもてなしの準備をしておくことが今年の大きな目標と考えております

本年も品川宿のまちづくりに、変わらぬ皆さまのご理解とご協力を心からお願い致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
会長　堀江 新三

交流事業

2023年は、川崎宿起立400年です!

2023年に川崎宿は起立400年を迎えます!品川宿や多くの宿場では2001年に400年祭のお祭りが行われましたから、22年遅れの400年祭です。川崎では約10年前から有志が集まり準備をしてきました。10月21日(土)には『第35回東海道シンポジウム』をカルッツ川崎にて開催します。お隣の宿ですから、是非こぞっていらしてください!翌日22日(日)には川崎宿の街歩きも予定しています。シンポジウムの他にも数々のイベントが企画されています。400年祭キックオフイベントとして4月22日(土)に『宿場まつり』が稲毛神社と稲毛公園にて行われます。また、シンポジウムと同日に開催される川崎最大級のイベント『いいじゃん川崎』や『六郷の渡しでのイベント』などの情報もQRコードからゲットできますので、ぜひ覗いてください。川崎宿の2023まつりの実行委員は、長く活動を続けている品川宿まちづくり協議会に時々お邪魔して学ばせていただいています。今後は東海道を活かした活動を一緒に企画できたら良いですね!(あらたに葉子)



東海道シンポジウム亀山宿大会

11月26日　南馬場を出発。東海道シンポジウムの開催される亀山市文化会館まで395kmのドライブ。 開会前に地元亀山藩御流儀の心形刀流保存会による演武の披露。城下町ならではの無形文化財だ。歴史の道 宿駅会議より堀江理事長、櫻井亀山市長の挨拶に始まり、谷口名城大学教授の長基調講演の後、全宿場一層の交流を深める「東海道御宿場印巡り」を鞠子宿の丁子屋主人、関宿深川屋主人と品川宿大越氏らの説明、来年の川崎宿大会の案内で終了。今年も新コロナの影響で懇親会は中止だったが、翌日は10時より亀山語り部の会会員の案内で亀山城址周辺を多聞櫓や武家屋敷、京口見附門跡等90分街歩きを楽しんで帰路に就いた。1988年の第1回土山宿大会から33年、3年ぶりに顔を合わせた土山宿鵜飼屋主人の最初の言葉が「歳とったなあー」。「お互い様だよ」と後期高齢者になった私。東海道を完歩して品川の住人として街道の行政を含めた仲間と出会えたことを感謝しています。(伊東 進)



\ご宿場印で繋がる東海道/

■東海道の起点 日本橋及び、かつて宿場町として栄えた品川宿から三島宿までの11宿場に本支店を置く9信用金庫の協賛・協力のもと、地域の賑わいを創出するため各地の観光協会等と連携し、東海道を来訪した証として“御宿場印”「東海道御宿場印めぐり」の販売が昨年10/7(金)から始まりました。御宿場印は神社仏閣巡りの「御朱印」や、城巡りの「御城印」集めなどの人気の高まりを受けて作成、各宿場を担当する信用金庫が御宿場印作成にかかる初期費用を負担し寄贈することで、取組みを後押しするというもの。これを受け、東海道一之宿の品川宿では、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会が窓口となり、(一社)しながわ観光協会協力のもと、品川宿交流館(北品川2-28-19)にて販売。南品川櫻河岸まちなか観光案内所(南品川1-3-3)でも案内をしています。今後1月中には京都三条までの東海道五十三次が御宿場印で繋がり、その後も信用金庫や各宿場とと協力して大坂までの五十七宿を繋げたいと考えています。近い将来、東海道の各宿場を満喫しながら京都・大坂まで目指す地元密着型のスローな旅のツアー実現に向けても各所と調整しながら動いていきたいと思っています。

((一社)しながわ観光協会 大越 章光)

●東海道御宿場御印　各宿場300円
●東海道御宿場印帳　2,800円



■東海道一東西に長く、約半数の宿場を要する静岡県がいよいよ御宿場印が動き出します。奇しくも今年2023年はNHK大河ドラマ『どうする家康』の舞台として、静岡県と愛知県が注目を集める一年となることでしょう!宿駅伝馬制をしいたのも家康さんだったので、「東海道はやはり家康さんから始まるのか～!」と、必然的な力すら感じています。御宿場印や御城印をきっかけに、まちをつなげる「生きた道」としての東海道が再び躍動するはずです。それは東海道に暮らす僕たちのつながりがあってこその道です。今なら江戸時代以上に絶対面白いことができるのではと、今年一年をワクワクしながら楽しみたいと思います。

(とろろ汁の丁子屋十四代目　柴山 広行)



蒲原西小学校修学旅行

8年前のこと観光協会が校長先生からの依頼を受けて始まった修学旅行も今回で6回目。10月25日蒲原西小学校の6年生25名が品川宿を訪れた。品川・荏原の両神社をガイドと巡り、聖蹟公園で3回目から参加の協議会メンバーら品川宿の20名程が出迎え、生徒達が製作した「蒲原宿の魅力」を御殿山の桜や高値になった桜エビの話し等を発表披露。発表の内容は年々上達して、品川宿への質問の中では詰まるような場面も。ここに後日届いた小学校からの礼状を抜粋してお届けします。

「電線の地中化等景観を美しく保とうと時間やお金をかけて、宿場を守ってくれる人が大勢いる事、ガイドさんの丁寧な説明、大勢の暖かい出迎え等、蒲原と同じ人達がいる事に気付かされました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。」

(伊東 進)



まち並み整備プロジェクト

品川駅南地域の未来を創る推進協議会の活動

コロナ禍、対人協議が欠かせない中、令和4年8月31日、9月1日の2回に分けて、37回役員会が開催された。前年度の報告に続いて、引き続き業務委託としてエリアマネージメント活動で(株)UG都市建築、(株)日本設計に業務委託する方針の説明があった。昨年度エリアマネージメント案について広く、町会・まちづくり協議会などに説明するとの事であったが、コロナ禍を受けてその言は実行されなかった。

推進協議会での報告のみで進んでいく地域の問題に危惧を感じる。現在、品川区では地域計画の10年ごとの見直し作業が進められている。万難を排して広く説明を願いたい。　(新実 正義)

景観アドバイザー業務など近況

今年も再開発計画の相談があった。その一つに虚空蔵横丁の東海道側入口の計画がある。この計画では虚空蔵横丁はいわゆる二項道路であり拡幅は不可避で、計画上のセットバックと併せて、路地の風景は一変することになる。協議の結果、計画地の東海道と虚空蔵横丁の角に、東海道の線形を意識させる立上付き植栽帯と黒松を、虚空蔵横丁側のセットバックしたスペースには、ベンチのあるポケットパークを設置して頂けることになった。この様に限られた条件のもと、工夫はして頂けるが、街並みは変わりゆく現状がある。

ところで、今年度は街並み整備事業の一環で、対象地区内に居住の無作為に選んだ方に三年ぶりにアンケートを行った。その中で70代以上では「品川宿らしさを感じない」と回答した方が多数派であったのに対し、60代以下では「らしさを感じる」と回答した方が多数派であった結果に希望を感じた。

(安藤智庸)



品川宿灯篭プロジェクト実施報告

2022年の灯篭プロジェクトは、「秋の運河まつり」で城南小学校、東京メガイルミ(大井競馬場)品川区民デー(11/21、22)と八ツ山通り沿いの品川区立品海公園(12/16)で台場小学校の展示を行いました。品海公園の展示は灯篭プロジェクトの企画で行われ、区の公園課の許可のもと行っております。灯篭プロジェクトより小学校に提供した灯篭キットに、子供たちに自由な絵や柄を描いて作ってもらいました。灯篭プロジェクトの活動は、プロジェクトで開発した灯篭キットを小学校の授業で使ってもらい路地に飾り地域の方々に見てもらっております。旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の灯篭プロジェクトメンバーと地元の方々が一緒に展示をしました。

(東京サラヤ　小野文義)



景観フォーラム

品川区が景観法による景観行政団体に移行(2010年7月)してから、12年が経過しました。この機会を節目に、これまでの景観まちづくりの実績や地域の景観資源の再認識など踏まえて、これからの品川の景観形成の在り方を探って行きたい。と言う主旨で、12月15日に品川第一区民集会所第二集会室にて景観フォーラムが開催されました。東京都建築士会品川支部の主催で司会は塩原達郎さん、パネラーとして品川区の都市環境部長、芝浦工業大学建築学部建築学科教授の志村先生、まちの仲間から伊東進さん、うなどこ主催の田邊寛子さん、景観アドバイザーから伊與久がテーマに沿って講演させて頂きました。聴講者四十数名が最後までご清聴下さいました。

(伊與久なつむ　品川区景観アドバイザー)



水辺プロジェクト

しながわ水辺の観光フェスタ2022

挑戦し続ける運河まつり

本年も無事に開催できた『秋の運河花火まつり』。雨が心配されていたが、晴れ男晴れ女の集まりで雨を吹き飛ばし、多くの方にご来場いただいた。8,000発の花火も無事に打ち上げることができ、お客様の歓声がとーっても嬉しかった。今回初の試みであった「移動動物園」は、想像以上に親子連れに人気で、これは継続コンテンツかなと。肉体的には疲労度MAXだけど、花火の時の歓声、たくさんのお礼のお言葉が次のおまつりへのエネルギーになる。そして、そんなおまつりを運営していることに誇りを感じる。私自身、運河まつりのーファンであり楽しんでいる一人である。春の運河まつりもお楽しみに！
（鷲頭智佳子）



しながわ水辺の観光フェスタ in 八潮

10月8日(土)9日(日)に、八潮地区では「しながわ水辺の観光フェスタin八潮」を開催しました。今年でこのイベントも6年目を迎えました。屋形船を計11便運行し、およそ500名の方々にご乗船いただけました。参加者からは「普段見えない場所から住んでいる地域を見ることができて楽しかった」というお声を頂き、新たな視点で眺めることで、八潮の良さ品川の良さを再認識できるイベントになったように思います。コロナ禍の中でもこのように開催できたのも、イベント本部の皆様、参加者の皆様、スタッフの皆様のおかげです。 深く感謝申し上げます。また来年も開催できるよう尽力してまいります。
（やしお水と光のまちづくり協議会 宮里 耕太）



青空フィットネス ～子どものからだと心を育む持続可能な地域活動～

春と秋に開催される天王洲を拠点に繰り広げられる地域イベント『しながわ水辺の観光フェスタ』の中の、グランド企画で『青空フィットネス』を担当させていただいております『品川区エアロビック連盟（品川スポーツ協会準加盟団体）』です（共催：OKJエアロビックファミリー・一般社団法人 22世紀親子からだ育て塾）。天王洲のグランドで、芝生の上で、だれでも簡単に！抱っこやおんぶでもできるエアロビクス体操・ストレッチ・親子で組体操・芝生の上をそりのように滑ったり、青空に向かい大きなバルーンを羽ばたかせたり…ファミリー層が親子で楽しめる内容です。多様な用具を遊園地のように広げて遊びこむサーキット体操！主催者の皆様・地域の皆様のあたたかなご理解を頂き毎回充実度が増しています。2022年は、春秋で800名を超えるご参加を頂きました！さらに充実を図り、品川名物『青空フィットネス』として全国にも発信してまいります！
（上田泰子）



東海道しながわ橋テラス2022

お天気に恵まれた10/9（日）12～16時。東海道品川橋の上でカフェ、マルシェ、古本市、ワークショップを開催。旧東海道の通行止めを活用し、道端に置いた緋毛氈ベンチには、小さいお子さんをはじめ、まちの広い年代層の方々が座り、のんびりゆったりとした時間が過ぎていた。普段は車中心の東海道だが、人のための道としてのアイデンティティを取り戻したいな～と切に思う。そして、街道文庫の田中さんセレクトの古本には、立ち読みする方が絶えなかった。今回カフェでは、多種フレイバーを用意したポップコーンが子供たちに大人気で、スタッフは終始ポップコーンをつくる一日だった（笑）。ワークショップ会場では、シルクスクリーン体験をしながらのオリジナルミニポーチづくり。スタンプ押しにハマる大人続出で、わいわいと久しぶりに賑やかなに品川橋上となった。
（わだふじこ）



勝島秋のカナルフェス2022

2022年10月31日に勝島運河にて秋のカナルフェス2022を開催しました。これは、10月8、9日に開催した水辺の観光フェスタの一環で、勝島運河で行われる「菜の花の種まき」（NPO花海道）に合わせて日程をずらしたものです。当日、幸いにも天候に恵まれ、羽田空港およびお台場の周遊船、勝島運河でのEボート乗船体験、およびお菓子の魚釣り、バルーンや飲食店等、どのイベントも満員御礼の状態になり、久しぶりに賑わったイベントとなりました。
（嶋村 泰輝）



しながわ水辺の観光フェスタ in 五反田

五反田では10月8・9日、エコボート（電気モーターで駆動する排気ガスの出ない環境配慮型ボート）2隻と助っ人船の計3隻で、目黒川周遊ツアーを催しました。桜の木が紅葉し始める初秋の目黒川もいい感じです。今回は船にシャボン玉マシーンを搭載し，流しながらの航行でした。船内でもシャボン玉遊びを楽しんで頂き、子供たちは大喜びでした。目黒川に架かるたくさんの橋の中で、唯一定期的に再生水を放水する『御成橋』にて、その水のカーテンを利用し、称して『五反田ナイアガラくぐり』も敢行しました。驚いて声を上げるほどです。隣接するふれあい水辺広場では、キッチンカー集合・シャボン玉遊びで楽しい空間を演出し、楽しい2日間でした。
（五反田部会　小池）



なぎさの会 2022活動報告

ようやく社会情勢も更新され、我々も再起動し通常に戻り活動できた一年であったと思います。いつも協力、応援を惜しまない皆様への感謝と共に、主だった活動を下記にて報告致します。



① 4月8日、9日「しながわ運河まつり2022」

2020、2021と連続でお休みしておりましたが、その間開催会場である東品川海上公園の拡張整備や新たな船着場も設置され、恵まれた環境下で再開することができました。たくさんの方々にご来場いただき大いに賑わいました。

② 4月9日「東品川海上公園船着場完成記念式典」

行政、関係団体、地域の方々を来賓に迎え、しながわ運河まつり実行委員会主催で執り行われました。非動力船と動力船が共用可能な、都内でも珍しい特徴的な構造の船付場です。設置に向け長年にわたり尽力された諸先輩方や担当行政の方々に感謝し、今後の水辺の賑わい創出に協力していきたいと思います。

③ 10月8日、10日「しながわ秋の運河花火まつり」（しながわ水辺の観光フェスタ）

直近過去2回はWEB配信や規模縮小等の調整開催でしたが、今回は通常通り開催できました。想定通り、たくさんの方が来場されました。今後も安全第一で開催できればと思います。

以上、今後ともよろしくお願い致します。（なぎさの会　忠鉢和則）



しながわっこプロジェクト

品川宿六小学校対抗 東海道駅伝

11月27日日曜日、「品川宿六小学校対抗 東海道駅伝」が開催されました。3年振りとなる今大会、子供たちも保護者もそれぞれ初参加という心機一転の大会となりました。※競技は4年～6年が対象の為。多少の不安はありつつ現役の保護者を中心とした警備体制の中、品川警察の多大なる協力、地域関係者のフォローにより、事故なく無事に競技を終える事ができました。また半年以上前から準備を重ねた、各小学校のPTA会長努力も大きかったことでしょう。まちづくり協議会ではYouTubeLiveによる生配信を中心にお手伝いをしました。今後も子供たちの懸命な姿を伝統として続けていくため、お手伝いしていきたいと思います。
（井上明裕）



城南小学校6年生まち歩き 「東海道歴史探訪」

11月19日土曜日、城南小学校6年生市民科授業「東海道歴史探訪」が行われました。スタートは常行寺からゴールの城南小学校まで14か所のポイントを巡るまち歩き。各ポイントではそれぞれのテーマに合わせた衣装を纏いながら、子供たちに品川で起きた歴史を伝えます。北品川の旧相模屋（土蔵相模）前では、桜田門外の変に向かう水戸藩士を、利田神社鯨塚では打ち上げられた鯨を見物に来た町人を、そのほか各所にて城南小学校パパ会のメンバーが、それぞれに合わせた衣装で熱演。また、まちづくり協議会メンバーは、地元をよく知る案内人として参加。まち歩きを通じて子供たちとの交流を深めました。
（井上明裕）



品川宿 TOPICS

World ENNICHI 台湾の夜@寺子屋みろく

境内で夏休みこども映画会、音楽イベント、屋上空地で屋上菜園などなどと、これまで幾度となく寛容に場を開放してくれた本照寺さん。そのご恩を返しだ!と、老朽化した庫裡をリノベしたフリースペース＜寺子屋にろく＞の運営お手伝いに手を挙げ、5月にスタートしたコミュニティカフェ「みろくカフェ」。カフェの利用料（=ドネーション）を貯金しながら、地域に、お寺に何で還元しようかと考える中で、ずっと心の中で燻っていた「縁日」の復活に火がついた。勢いとまちの仲間のエネルギーで、〈World ENNICHI〉プロジェクトが始動!そして第一弾「台湾の夜」を11月3日（木・文化の日）に開催した。ビックリするくらい沢山の人が来てくれて、開始20分で準備していたほとんどのフード、ドリンクが売切れてしまった…。反省も学びも多い一発目だったが、多くの人が望んでいる場なのだと確信もできた。年2、3回（満月とか）開催できたらいいな、お店同士が繋がるきっかけをつくりたいな、と夢は広がる。〈みろくカフェ〉に訪れるみなさんの利用料が、次回の「World ENNICHI」や、まちへの還元につながる仕組みをつくっていきたいので、〈みろくカフェ〉にのんびりお茶しに来てください!　（わだふじこ）



品川蕪品評会

＜第9回品川蕪品評会＞が12月25日(日)品川神社にて開催されました。朝から寒いスタートでしたが、地元小学校からなんと仙台市の方までがエントリー参加し、長きにわたる活動の裾野の広さを実感した会となりました。毎年のことながら、どの品川蕪もそれぞれ個性があり、審査する人が一番大変なイベントです。江戸時代から昭和中頃まで、品川では盛んに育てられていたという品川蕪。消滅したと思われていたその品川蕪を探し続け、15年前に小平市で栽培されていることを見つけたのが、北品川で八百屋丸大を営む大塚さん。その品川蕪の普及とともに、こどもたちへの食育活動に取り組んでいる。その活動をさらに確固たるものにするため、現在、NPO申請中!農業、地産活動はみんなでやるのが楽しい!品川宿でもっと盛り上がるといいな。　（わだふじこ）



北品川本宿観光案内所オープン!

北品川商店街事務所（北品川2-4-17）をお借りして、令和4年11月12日（土）に北品川本宿観光案内所がオープンしました。この観光案内所は北品川1丁目にあった北品川新宿観光（臨時）案内所の閉鎖を受けて開設されたもので、土・日・祝日の10:00～15:00の間で、ガイドしながわの皆さんが常駐し、観光スポット紹介や周辺の観光マップを配布しています。品川宿においでの際はぜひお立ち寄りください。
（(一社)しながわ観光協会 大越 章光）
※新年は1/7(土)より開所致します。



アイルしながわオープン

以前、不燃ごみの中継所として運用されておりました旧東品川清掃作業所は、「アイルしながわ」として、障害者スポーツを通じて多様な人たちが集える場所、共生社会の実現に向けた取り組みやアーティストの活動の場など、文化・スポーツを起点としたまちの賑わいを創出する場として活用されます。車いすバスケやブラインドサッカー等各種競技の練習会場や普及活動、文化活動の場としての活用のほか、月2回程度マルシェなどを開催し、地域の賑わい創出の起点となれるよう運用される計画です。内部は天王洲アートフェスティバルで描かれた巨大壁画がある大空間となっております。見学・利用については事務局までお問い合わせください。
（一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会　和田本）



一社）エリアマネジメントTENNOZ 令和4年度「官民連携まちなか再生推進事業」に

天王洲アイル地区の主要なまちづくり団体の企業を包括する組織であり、まちづくり全般を担うエリアマネジメント組織：一社）エリアマネジメントTENNOZ（以下、エリマネTENNOZ)は、品川区と共同で国土交通省が推進する「居心地よく歩きたくなるまちなか」の形成や、都市の魅力向上を目的とした取り組みを支援する「官民連携まちなか再生推進事業」に応募し、採択されました。令和4年度は「エリアプラットフォーム」を構成し、構成員とのディスカッション、ワークショップ、社会実験などを行い、天王洲の特性を活かした「未来ビジョン」を検討しています。本件では令和5年度も「未来ビジョン」の実現に向けての計画を始めています。
（一社）エリアマネジメントTENNOZ広報部会　松岡久美子）



『お台場少年』2023年1月23日に出版

『お台場少年』は、品川で生まれ育った田森庸介さんが書かれた、品川宿周辺の記憶遺産と呼んでもおかしくない、子供たちのわくわく感の詰まった読み物です。子供たちと一緒に親世代以上の方が読んで品川のまちの変化について語り合ってもらいたいとの願いが込められています。そのため、本文は児童小説ですが、子供たちに理解しづらい歴史的な事柄については解説ページも多く挿入しています。これらの事柄については、親世代以上の方の実体験に基づく解説・語り合いで、子供たちの理解も深まると思っています。品川宿交流館、街道文庫などで購入できます。より多くの方に読んでもらうため販売協力をしていただける店舗、個人の方を募集しています。また、amazonでも購入できます。今後、出版記念会、朗読会等も開催する予定です。
『お台場少年』出版実行委員会
(問)街道文庫・田中まで
〒140-0001品川区北品川2-6-12
電話03-6433-0349
携帯090-3096-7831



ゲストハウス品川宿おもてなし2022

創業14年目を迎えたゲストハウス品川宿では、新型コロナウィルスにも負けず、1日も休まず宿泊事業を運営しました。また、22年4月からは旅行会社も設立し、花火・屋形船の販売、まち歩きツアーなどのローカル体験ツアーを造成しました。10月に、大井ホッケー競技場にて、マスターズホッケーワールドカップが開催され、共催事業としてインバウンド品川宿おもてなし事業を企画・運営をし、延べ12カ国、総勢600名の来訪者からご好評をいただきました。同月に外国人観光客の入国制限が解除され、品川宿にもインバウンドの方が増えてきました。品川宿へいらっしゃる海外の方へ、地域の魅力を発信できるよう、引き続きおもてなしをして参ります。（宿場JAPAN　渡邊崇志）

ドキュ・メメント2022 開催報告

12/3・4の2日間、本照寺の本堂と寺子屋みろくにて、毎年恒例のドキュメンタリーの祭典『ドキュ・メメント2022』を開催しました。スタンダップコメディアンや大道芸人、性と障害の差別についてや、民俗学的視点のドキュメンタリー。ミャンマーを取材中に拘束された久保田徹の獄中体験など、貴重な声に耳を傾ける機会となりました。

今年初の試みとして、子供たち向けの“ドキュメンタリー寺子屋”も開催。ウクライナの映画学校の子どもたちとネットでつなぎ、「当たり前の日常を大切にして欲しい」という貴重な言葉をもらうことができました。2日間でのべ150名が集まり、寺子屋らしい「学び」の空間になりました。　（米本直樹）

北品川生まれの画家 大正の写楽 山村耕花「梨園の華」新版画展を開催して

私たちの会は地元品川の歴史や文化を掘り起こし、皆さんと共有して楽しむ活動をしています。令和4年7月2日・3日の2日間、“北品川生まれの画家山村耕花「梨園の華」新版画展”を、品川宿まちづくり協議会のご協力を得て、品川宿交流館にて開催させて頂きました。2日間で約200名のご来場を頂き、山村耕花の故郷、旧東海道品川宿でその素晴らしい作品を楽しんで頂きました。また令和4年は「梨園の華」シリーズ制作から百年に当たり、深いご縁を感じる版画展となりました。令和5年4月には、「版画でたどる懐かしい東京の風景展」を同じく品川宿交流館で開催予定です。品川宿ゆかりの新版画も地元初展示予定ですので、是非足をお運びください。
（品川 見・聞・楽（旧、いどばた品川）代表 海老原 晶子）



3年ぶりの開催! 御殿山 ART&TECHNOLOGY WEEK 2022

11月28日（月）～12月4日（日）、御殿山トラストシティにて「御殿山 ART&TECHNOLOGY WEEK 2022」を開催しました。IT・ものづくり企業の集積地という地域性にちなみ、“好奇心”にフォーカスした「御殿山Books」を期間限定OPEN。特設本棚には地域で働く方や暮らす方の“好奇心”が垣間見える選書展示と古本が並び、立ち寄った多くの方々が手に取りました。

週末には御殿山庭園の見学ツアーを基軸としたレゴブロックでの庭園再現や、お茶会体験、盆栽づくり等の子ども向けワークショップを開催。参加した子どもたちは、学びながら創造力を発揮しました。また1月27日まで“サステナビリティ”をテーマに、竹を活用したイルミネーションで冬の御殿山を彩っています。今後のイベントもどうぞお楽しみに!　（御殿山Tech×Life協議会）

